



No.418

平成29年12月19日

編集発行 富山県教育委員会

発行人 教育企画課長

教委だより

特集 Stop! ザ・ネットトラブル(p2)



川人 光男氏による講演



富山県教育フォーラム ～科学する心を育む教育の推進～

「富山県教育フォーラム」が11月4日(土)に富山国際会議場で開催されました。石井知事のあいさつの後、「とやま科学オリンピック2017」の授賞式が行われました。金賞、銀賞、銅賞、特別賞の受賞者347名一人一人に石井知事、渋谷教育長、山下、坪池両教育次長から賞状と副賞が授与されました。

授賞式に続いて(株)国際電気通信基礎技術研究所 脳情報通信総合研究所所長の川人光男氏による『「脳と人工知能」ーヒトと人工知能は共存できるのかー』と題した講演がありました。人工知能を搭載したロボットの映像等を見ながらのとてもわかりやすく興味深い内容の講演でした。講演の後には、受賞した小中高校生から質問が相次ぎ、講演への理解がより深まりました。

Contents (主な内容)

- 特集 Stop! ザ・ネットトラブル ……2p
- キャリア教育指導者養成研修 ……2p
- 第22回 富山県中学校文化祭 ……3p
- 第29回 富山県高等学校文化祭 ……3p
- 「高志の国文学」情景作品コンクール及び「ふるさとの優れた先人に学ぶ」作文コンクールの表彰式開催 ……3p
- 平成30年度県立学校募集定員 ……4p
- 学校給食とやまの日の取組み ……5p
- 健康教育実践優良学校の取組み ……5p
- 第35回 富山県駅伝競走大会について ……6p
- 第17回 全国障害者スポーツ大会「愛媛つなぐえひめ大会」 ……6p
- 「小学生のスポーツ大会での活躍」 ……7p
- 平成29年度 全国中学校体育大会 ……7p
- 全国高校総体 ……7p
- 平成29年度 全国学力・学習状況調査結果より ……8p
- 平成28年度 児童生徒の問題行動・不登校等に関する調査 ……8p
- 元気で創造性豊かな子どもの育成 ……8p
- 子どもとやま県議会 ……9p
- わくわく古代チャレンジ2017 ……9p
- インフォメーション ……9p
- 総合教育センターNOW ……10～11p
- 学校レポート「一人一が輝き、主体的に取り組む活動を推進ー「東中ライトアップ作戦」を中心としてー」
魚津市立東部中学校 ……12p
- リレーエッセイ「逆境に負けない」
富山県小学校長会長 滑川市立西部小学校長 清田 秀夫 ……12p

特集

Stop! ザ・ネットトラブル

～その5～

～投稿する前に「ちょっと考えて！」～

【問】 高校生のタロウ君が家族と飲食店に行った際、家族がビールジョッキで乾杯した様子をスマホで撮影し、SNS上に公開しました。この後、どのようなトラブルに巻き込まれる可能性があるでしょうか？

【答】 このようなトラブルが考えられます。
⇒ 名前や顔写真と他の情報が結びつき個人を特定される
⇒ 投稿したタロウ君が飲酒したと誤解される
⇒ ネット上で心ない批判や苦情が殺到する
⇒ 脅しのネタに使われる

例えば、公開した画像を悪意のある者が保存し、数ヶ月後又は数年後、進学や就職、結婚等が決まる大事な時期を狙って、過去の画像や書き込みを脅しのネタとして使った事例があります。

◎SNS上では、誤解を与えてトラブルに巻き込まれるおそれのある投稿が多く見られます。投稿の前に「ちょっと考える」ことができれば、ほとんどのトラブルは避けられます。

～どんな意味かわかりますか？～

【問】 若者たちがSNSでやりとりする際、新語を頻繁に使うようです。皆さんは次の言葉の意味がわかりますか？ ※答は、5ページ（下）にあります。

Q1 「り」 Q2 「わず」 Q3 「イミフ」 Q4 「グルチャ」 Q5 「とりま」



タロウ
@Kyouidayori

焼肉なう～笑笑
カンパーイ(∩o∩)v



2017年12月〇日

タロウ君の投稿



キャリア教育指導者養成研修（全2回）

～今年も富山県で開催！～

国の地方創生にかかる取組みである「政府関係機関の地方移転」における研修機能の一部移転として、独立行政法人教職員支援機構（茨城県つくば市）で実施している研修のうち、キャリア教育指導者養成研修が今年も富山県で開催されました。

第1回は8月、第2回は10月に高志会館で行われました。各回とも教育委員会の指導主事や小中高校の教員ら約100名が全国から参加し、グループワークやポスターセッションなど多様な形式で研修を深めました。受講者からは「共有→協議→事例→協議という流れに一貫性があり、校内の研修でも同様の形式でやっていきたい。」などの声が聞かれました。



第22回 富山県中学校文化祭

「かづみ野に響け創造の交響曲（シンフォニー） 未来へ架ける文化の虹」のスローガンのもと、10月8日に「第22回富山県中学校文化祭」が新川文化ホールで開催されました。音楽や郷土芸能・演劇、美術、茶道等10部門で日頃の活動の成果を披露しました。会場には中学生や保護者が多数来場し、みずみずしい感性が光る作品やステージ発表に見入っていました。また、中学生による受付や案内等の運営がさわやかな印象を与えました。



上市中学校吹奏楽部による演奏

第29回 富山県高等学校文化祭

第29回富山県高等学校文化祭が10月28日～30日を中心会期として、富山県民会館をメイン会場に開催されました。今年のテーマ「咲き誇る創造の花 輝く未来への飛翔」には、高校生の喜びや苦悩の中から生み出された作品やステージ発表が、高文祭の会場で開花し、その輝きが未来を照らし、次の時代の文化創造へとつながってほしいという想いが込められています。

日々文化活動に励む高校生の創造性あふれる作品展示やステージ発表は、会場を訪れた観覧者を魅了しました。



郷土芸能専門部「越中八尾おわら」八尾高等学校

「高志の国文学」情景作品コンクール及び 「ふるさとへの優れた先人に学ぶ」作文コンクールの表彰式開催

11月1日（水）、「高志の国文学」情景作品コンクールと「ふるさとへの優れた先人に学ぶ」作文コンクールの表彰式が高志の国文学館で行われ、石井知事から2つのコンクールの入賞者49名に賞状と副賞が授与されました。

石井知事からは「皆さんが生まれ育ったふるさとへの誇りや愛着、家族や地域の方々との絆を大切にしながら、富山県の未来を切り拓く人材へと、大きくたくましく成長されることを心から期待しています」と激励を受けました。その後、「高志の国文学」情景作品コンクール文芸部門で知事賞を受賞した富山高校1年 松田わこさんが2つのコンクールの受賞者を代表し、感謝の言葉を述べました。

今年度、情景作品コンクールには、文芸や美術、写真部門に計1,681点、作文コンクールには2,406点の応募がありました。



受賞者代表（富山高校 1年 松田わこさん）のあいさつ



授賞式の様子
（「高志の国文学」情景作品コンクール）



授賞式の様子（作文コンクール）

平成30年度県立学校募集定員

- ◆ 全日制6,824人、定時制約960人、通信制約300人、専攻科約160人を募集します。
- ◆ 特別支援学校の高等部及び高等部専攻科の募集人員は、約280人に訪問教育の若干名を加えたもの、並びに幼稚部は若干名とします。
 - 平成30年3月の中学校卒業予定者数は、平成29年3月に比べ457人減の9,659人の見込みであり、全日制課程の募集定員は、平成29年度に比べ358人減の6,824人とします。
 - 定時制課程の募集定員は、平成29年度と同様とします。
 - 通信制課程の募集定員は、平成29年度と同様とします。
 - 専攻科の募集定員は、平成29年度と同様とします。
 - 特別支援学校高等部及び高等部専攻科、幼稚部の募集人員は、平成29年度と同様とします。

	募集定員	前年度比	備考
全 日 制 課 程	6,824人	-358人	
定 時 制 課 程	約960人	—	
通 信 制 課 程	約300人	—	
専 攻 科	約160人	—	
特別支援学校 高等部 及び高等部専攻科	約280人	—	訪問教育若干名を加える
特別支援学校 幼稚部	若干名	—	

平成30年度 富山県立高等学校全日制課程第1学年募集定員

学校名	学科名	募集定員		備考
		学級	定員	
泊 入 善	普 通	3	120	観光ビジネスコース 自然科学コース
	農 業	1	30	
桜 井	普 通	2	80	帰国生徒5
	土 木	1	40	
	生活環境	1	40	
魚 津	普 通	4	160	電子機械コース 化学工業コース
	機 械	2	80	
	電 気	1	40	
魚津工業	情 報 環 境	1	40	電子機械コース 化学工業コース
	普 通	2	80	
	薬 業	1	40	
	商 業	1	40	
滑 川	海 洋	1	40	環境化学コース
	総 合	4	160	
上 市	普 通	3	120	探究科学科
	生 活 文 化	1	40	
雄 山	普 通	3	120	探究科学科
	生 物 生 産	3	90	
	園芸デザイン	3	90	
中央農業	生 物 生 産	3	90	作物科学コース 動物科学コース 園芸福祉コース 環境緑化コース 生物工学コース 食品加工コース
	園芸デザイン	3	90	
八 尾	普 通	4	160	福祉コース
	普 通	4	160	
富 山 西	普 通	5	200	探究科学科
	理 数 科 学	2	80	
	人 文 社 会 科 学	2	80	
富 山	普 通	5	200	探究科学科
	理 数 科 学	2	80	
富山中部	普 通	5	200	探究科学科
	理 数 科 学	2	80	
	人 文 社 会 科 学	2	80	
富山北部	普 通	2	80	探究科学科
	くすり・バイオ	1	40	
	情報デザイン	1	40	
富山工業	機 械 工 学	2	80	探究科学科
	電 子 機 械 工 学	1	40	
	金 属 工 学	1	40	
	電 気 工 学	2	80	
	建 築 工 学	1	40	
富山商業	土 木 工 学	1	40	探究科学科
	流 通 経 済	2	80	
	国 際 経 済	1	40	
	会 計	2	80	
	情 報 処 理	2	80	
富山いずみ	総 合	4	160	探究科学科
	看 護	1	40	
富 山 東	普 通	6	240	自然科学コース約40
富 山 南	普 通	5	200	国際コース
水 橋	普 通	3	120	体育コース約40
呉 羽	普 通	6	230	音楽コース約30

学校名	学科名	募集定員		備考
		学級	定員	
小 杉	総 合	4	160	
大 門	普 通	3	120	情報コース
新 湊	普 通	3	120	探究科学科
	商 業	1	40	
高 岡	普 通	5	200	探究科学科
	理 数 科 学	2	80	
高岡西	普 通	3	120	人間福祉コース
	人 文 社 会 科 学	2	80	
高岡工芸	機 械	1	40	土木工学コース 環境化学コース
	電 子 機 械	1	40	
	電 気	1	40	
	建 築	1	40	
	土 木 環 境	1	40	
高岡商業	工 芸	1	30	探究科学科
	デ ザ イ ン ・ 絵 画	1	40	
	流 通 経 済	2	80	
	国 際 経 済	1	40	
伏 木	会 計	1	40	中国語コース 韓国語コース ロシア語コース
	情 報 処 理	2	80	
	国 際 交 流	3	120	
高 岡 南	普 通	4	160	人文科学コース
福 岡	普 通	3	120	英語コース
氷 見	普 通	3	120	探究科学科
	農 業 科 学	1	40	
	海 洋 科 学	1	40	
	ビ ジ ネ ス	1	40	
砺 波	生 活 福 祉	1	40	探究科学科
	普 通	5	200	
	機 械	2	80	
砺波工業	電 気	1	40	探究科学科
	電 子	1	40	
	普 通	3	120	
南 砺 福 野	農 業 環 境	1	30	探究科学科
	福 祉	1	30	
南 砺 平	普 通	1	34	探究科学科
南 砺 福 光	普 通	2	80	探究科学科
	国 際	1	30	
石 動	普 通	3	120	探究科学科
	商 業	1	40	
合 計		173	6,824	

※ 備考欄の「〇〇コース約△△」及び桜井高校普通科の「帰国生徒5」は、定員の内数である。
また、コース名のみは、2年次に開設するものである。

※ 詳しくは、県立学校課のHPをご覧ください。(http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/3003/index.html)

学校給食とやまの日の取組み

県教育委員会では、「富山県食育推進月間」に合わせて11月中の一日または数日を「学校給食とやまの日」とし、地元の農作物や県内食材を積極的に使用した学校給食を実施することとしています。県内の各小中学校では、市町村、学校給食関係者が協力して、地域の食材を取り入れた、特色ある献立が実施されています。

黒部市では、11月13日(月)に「学校給食とやまの日」が実施されました。給食は、黒部市学校給食センターの栄養教諭が「水と大地のめぐみがいっぱい!くろベジオパーク給食」をテーマに特別献立を考案し、黒部市産のいなきびや里芋、大根、名水ポーク、大豆、れんこん、なめこ等を取り入れた「いなきびおこわ、黒部の豚汁、海と里の恵み甘酢がらめ、なめこ入りおひたし」が提供されました。市内の小中学校では、地元の生産者の方を招いて会食が行われ、児童会の給食委員が献立に使用された地場産食材の紹介やクイズを行いました。



当日の給食



会食の様子

健康教育実践優良学校の取組み

平成29年度健康教育実践優良学校の総合・近視予防・よい歯の3部門で、12校が選ばれました。

	総合の部門	近視予防の部門	よい歯の部門
優良校	富山市立大庄小学校	砺波市立砺波北部小学校	砺波市立鷹栖小学校
準優良校	氷見市立上庄小学校	入善町立上青小学校	魚津市立大町小学校
努力校	入善町立入善小学校 射水市立中太閤山小学校 砺波市立砺波南部小学校	氷見市立朝日丘小学校	小矢部市立東部小学校 氷見市立速川小学校

ここでは、その取組みの一部を紹介します。

「総合部門」(いきいき富山っ子賞) 優良校「富山市立大庄小学校」の取組み

本校では、児童の生活実態や保護者のアンケート結果を踏まえ、「主体的に健康な生活を送る児童の育成」に努めています。生活習慣の徹底については、毎週月曜日の朝活動「さわやかタイム」の時間によつば調べ(頭文字にはが付く「早寝」「早起」「ハンカチ・はな紙」「ぼっちりメディア」)を実施し、自分が立てた目当てに基づいてチェックを継続しています。生活習慣の乱れなどの課題が見られる学級では、養護教諭とT Tで学級活動を実施しています。

また、児童保健委員会が中心となり、学校保健委員会で、長時間のメディア視聴が心身に及ぼす影響について知らせ、働きかけを継続することで、メディア使用の時間や使い方に気を付けようとする児童が増えてきました。

学級懇談会でも保護者間で「メディア」をテーマに話し合う時間を設定するなど、家庭や地域に啓発し連携を図ることで、健康な生活を送る意識を高めています。



メディアに関する学校保健委員会

「近視予防の部門」の取組み

- ・保護者が参観できる「学校医による協力授業」を伝統として位置付けたり、小中連携「すっきりゼロメディア週間」を設定したりするなど、家庭と連携して取り組んでいる。
- ・毎学期、机と椅子を児童の身長に適した高さに調節し、正しい姿勢の合い言葉「ゲーチョコキパー足」を教職員で共通理解して指導を行っている。
- ・児童保健委員会の活動に加え、運動委員会が全校運動を運営し、外での運動を奨励している。

「よい歯の部門」の取組み

- ・昼食後に手鏡で確認しながら3分間の歯みがきを継続することで、奥歯まで磨き残しなく磨く習慣が定着している。
- ・児童保健委員会では、「歯みがき選手権」の実施や歯みがきの仕方のDVDの作成等を行っている。
- ・学習発表会の機会を利用して学校保健委員会を開催し、児童保健委員会の発表や学校歯科医からの講話を実施したり、歯みがきを継続するアイデアを募集したりしている。

第35回 富山県駅伝競走大会について



県内12郡市代表の選手が健脚を競う「第35回富山県駅伝競走大会」が秋晴れの越中路で開催され、富山～高岡間往復42.5km、18区間で熱戦が繰り広げられました。9区でトップに立った富山市は、その後、他のチームの追隨を許さず、2位に4分以上の差をつけて見事9連覇を達成しました。2位には、一時8区でトップに立った南砺市が、3位には今年の6位から大きく躍進した中新川郡が入りました。

友好レースを含む小学5、6年生の男女14人で構成する12郡市のチームが、1周900mの県庁周回コースで順位を競った富山県小学生駅伝競走大会では、沿道に詰めかけた大勢の方々の声援を受けながら、タスキをつなぎました。



秋晴れの下、勢いよくスタートする選手たち 提供：読売新聞社

第35回県駅伝競走大会 結果

1位	富山市	2時間12分41秒
2位	南砺市	2時間17分37秒
3位	中新川郡	2時間17分53秒
4位	高岡市	2時間19分19秒
5位	射水市	2時間19分27秒
6位	砺波市	2時間19分31秒

区間新記録

18区（中学女子）2.2Km
柳楽あずみ（富山市）6分52秒

県小学生駅伝競走大会 結果

1位	富山市	28分29秒
2位	砺波市	28分54秒
3位	高岡市	29分00秒
4位	射水市	29分12秒
5位	小矢部市	30分06秒
6位	滑川市	30分14秒

第17回 全国障害者スポーツ大会「愛顔つなぐえひめ大会」

えがお

10月28日（土）から30日（月）まで「君は風 いしづちを駆け 瀬戸に舞え」を大会スローガンに、第17回全国障害者スポーツ大会「愛顔つなぐえひめ大会」が開催されました。

本県からは、陸上競技、水泳、卓球、フライングディスク、ボウリングの5競技20種目に、県内の学校（6校）に所属する12名の生徒を含む23名の選手が参加しました。

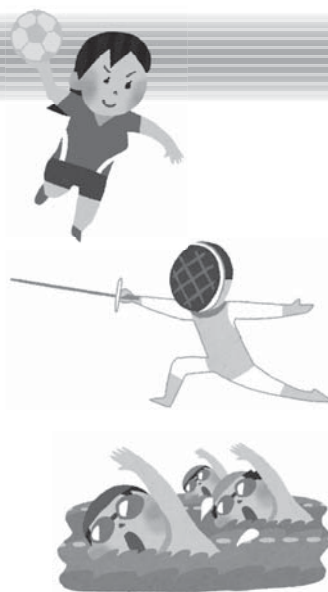
参加された皆さんは、それぞれの目標にチャレンジし、大会では、金メダル10個、銀メダル10個、銅メダル1個を獲得するとともに、自己記録を17個更新するなど、すばらしい活躍が見られました。



富山県選手団の皆さん

「小学生のスポーツ大会での活躍」

- ◆第34回全国少年少女レスリング選手権大会（福岡県：7月）
 - 1位 男子6年生60kg級 高林 心温 選手（滑川ジュニア）
 - 1位 女子3年生33kg超級 堀田みず希 選手（高岡ジュニア）
- ◆第30回全国小学生ハンドボール大会（京都府：8月）
 - 1位 女子 十三ジュニアハンドボールクラブ
- ◆日清カップ第33回全国小学生陸上競技交流大会（神奈川県：8月）
 - 1位 女子ジャベリックボール投げ 坂井希良来 選手（富山市立杉原小学校）
- ◆第3回全国小学生フェンシング選手権大会（秋田県：9月）
 - 1位 男子サーブル 前田 絆成 選手（SEIBUスポーツクラブ）
- ◆第39回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会（山口県：8月）
 - 2位 女子 蟹谷ホッケースポーツ少年団
- ◆第34回全日本小学生ソフトテニス選手権大会（東京都：7月）
 - 5位 男子団体 富山県選抜チーム
- ◆第40回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会（東京都：8月）
 - 5位 女子10歳以下200m個人メドレー 中嶋 碧 選手（ナントSC）



平成29年度 全国中学校体育大会

「全国大会で活躍した富山県の中学生」

富山県中学校体育連盟 理事長 二山 雄斗

「感動!夢舞台!!絆をつなげ 九州の地で」のスローガンのもと平成29年度全国中学校体育大会が九州ブロックで開催されました。本県からは、12競技に159名の選手が参加しました。大会では、水泳競技男子400mフリーリレーの富山東部中学校が2位（2年連続）、同じく200m個人メドレーの平野洋康選手（石動中）が2位、相撲競技個人の浦山秀誠選手（呉羽中）の2位をはじめ、3競技12種目において入賞を果たしました。

また、中学生の全国大会では、競漕男子舵手つきクォドルブルの大沢野中学校の2位をはじめ、多くの選手が全国の舞台で活躍しました。来年度は、中国ブロックで全国中学校体育大会が開催されます。本連盟ではさらなる選手の育成と強化を進めてまいりたいと思います。



水泳競技男子400mフリーリレー2位
富山東部中学校



水泳競技200m個人メドレー2位
石動中学校 平野洋康選手



相撲競技個人戦2位
呉羽中学校 浦山秀誠選手

全国高校総体

「はばたけ世界へ南東北総体2017」を終えて

富山県高等学校体育連盟 理事長 高木 直樹

「繋がる絆魅せよう僕らの若き力」のスローガンのもと、平成29年度全国高校総体が、山形県、宮城県、福島県の南東北3県と和歌山県を会場に開催され、本県からは30競技に505名の選手が参加しました。

今年は、梅雨明けの遅れや台風5号の影響で、曇天や雨天下での競技開催が比較的多い大会となりました。本県選手はよく健闘し、11競技37種目でベスト8以上の好成績を収めました。陸上競技男子200mで福島聖選手（富山商業）、ウエイトリフティング105kg級スナッチで村上堅信選手（滑川）の優勝をはじめ、カヌー女子カヤックペア500mで浦田樹里選手・中田舞絢選手（水橋）、公開競技女子シンクロナイズド3m飛板飛込で長澤明生選手（富山国際大付属）が連覇を果たしました。今後も、本県の高校生がインターハイでの経験を糧に世界の檜舞台で活躍することを期待しています。



開会式富山県選手団入場行進



現地激励会

平成29年度 全国学力・学習状況調査結果より



本年4月に実施された全国学力・学習状況調査について、8月に文部科学省より結果が公表されました。教科区分別平均正答率をみると、本県は、小・中学校とも全ての教科において全国の平均正答率を上回っており、一定の学力水準が保たれております。

これは、児童生徒一人一人の日頃の努力が成果となって現れた結果であり、児童生徒に応じたきめ細かな指導に取り組んできた市町村教育委員会や各学校の教職員の努力、学校教育を支えていただいている保護者や地域の方々の理解と協力によるものと考えています。

授業改善や学習習慣、生活習慣の定着等の学力向上策は、継続して取り組むことが大切であり、今後とも市町村教育委員会と連携しながら、各学校の取組を支援してまいります。

	小学校6年				中学校3年			
	国語A	国語B	算数A	算数B	国語A	国語B	数学A	数学B
本県平均正答率	78%	60%	82%	47%	80%	75%	68%	50%
全国平均正答率	75%	58%	79%	46%	77%	72%	65%	48%
H29(全国との差)	(+3)	(+2)	(+3)	(+1)	(+3)	(+3)	(+3)	(+2)
H28(全国との差)	(+2)	(+3)	(+3)	(+4)	(+2)	(+4)	(+3)	(+5)

※ A：主として「知識」に関する問題、B：主として「活用」に関する問題

平成28年度 児童生徒の問題行動・不登校等に関する調査 — いじめ・不登校・暴力行為 —

文部科学省の「平成28年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」の結果が、10月に公表されました。

() は、本県の1,000人当たりの認知件数

いじめの認知件数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校	特別支援学校	合 計
H28	482 (9.1)	387 (13.6)	94 (4.0)	9 (7.4)	972(9.2 国26.2)
H27	502 (9.3)	413 (14.2)	58 (2.5)	7 (5.7)	980(9.1 国18.0)

いじめの認知件数は、27年度と比べ、小学校・中学校で減少しましたが、高等学校で増加しました。1,000人当たりの認知件数は、全ての校種で全国平均(小：36.8、中：21.7、高：4.3、特：12.1)を下回っています。

() は、本県の1,000人当たりの不登校児童生徒数

不登校児童生徒数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校	合 計
H28	194 (3.7)	608 (21.3)	298 (13.3)	1,100(10.6 国14.1)
H27	205 (3.8)	597 (20.5)	295 (13.2)	1,097(10.4 国13.4)

不登校児童生徒数は、27年度と比べ、小学校で減少しましたが、中学校・高等学校でやや増加しました。1,000人当たりの人数は、全ての校種で全国平均(小：4.7、中：31.4、高：16.4)を下回っています。

() は、本県の1,000人当たりの発生件数

暴力行為の発生件数

年 度	小 学 校	中 学 校	高 校	合 計
H28	61 (1.2)	117 (4.1)	28 (1.2)	206(2.0 国4.7)
H27	55 (1.0)	170 (5.9)	30 (1.3)	255(2.4 国4.5)

暴力行為の発生件数は、27年度と比べ、中学校・高等学校で減少しましたが、小学校でやや増加しました。1,000人当たりの発生件数は、全ての校種で全国平均(小：3.5、中：9.2、高：1.9)を下回っています。

日ごろから規範意識の醸成や自己肯定感の向上、教育相談体制の充実等の取組により、問題行動や不登校の未然防止を図るとともに、児童生徒をきめ細かく見守り、家庭や専門家、関係機関と連携して早期発見・早期対応に努めることが大切です。

元気で創造性豊かな子どもの育成 (富山県ひとつづくり財団)

「夢の卵」育成事業



「将来こんなことがしたい」という「夢の卵(将来の夢)」を作文にしてもらい、優秀作品として表彰された皆さんに夏休み期間中その道の第一人者のもとへ短期入門してもらいました。今年度は小学校、中学校あわせて2,494作品の応募があり、4点が優秀賞に選ばれました。この夏4人はそれぞれの分野に入門し、夢をさらに大きく膨らませることができました。



受賞者表彰式

「きらめき未来塾」事業

子どもたちの発想力や想像力など多様な可能性を引き出すため、各分野の第一人者を講師に招き、夏休み期間中に小学校高学年を対象とした3つの道場を開催しました。今年は3年ぶりとなる「秋山仁先生のスペシャル公開授業」を開催し、うそを見抜くマジックなど算数の面白さを体感しました。

- 右脳活用道場(講師：漫画家 森みちこ氏)
漫画作りを通して、自分のアイデアを絵と言葉で表現する力を育てる。
- 思考道場(講師：県内の小学校教諭5名)
ゲーム感覚で数学的思考方を磨き、柔軟な思考力・発想力を育てる。
- お笑い道場(講師：社会人落語家 安野家仁楽齋氏)
落語を学び、ユーモアセンスと表現力を育てる。



秋山仁先生のスペシャル公開授業



子どもとやま県議会



8月24日、県内24小学校の5・6年生40名の子ども議員が県議会議事堂に集い、平成29年度「子どもとやま県議会」が行われました。

今年度は、県民が得意分野を生かして多くの人の夢を応援することで富山県をより元気にする提案や、電気の有効利用や新しいエネルギーのアイデアによってよりよい環境を未来に残す提案、地球資源の無駄遣いをなくし、ごみの有効利用を考えることで安心な環境を目指す提案や、美術館や公園に世代を越えて交流できる癒しのスポットを工夫して笑顔があふれる富山県を目指す提案が「活力・未来・安心・心」の4委員会から出され、熱心な質疑応答の後、いずれも可決されました。

最後に、石井隆一県知事から「目標をしっかり定めて、得意なことは大いに伸ばして、また、苦手なこともあきらめないうで、チャレンジしてがんばってほしい」との激励の言葉をいただきました。



委員会報告（委員長・副委員長）

わくわく古代チャレンジ2017

埋蔵文化財センターでは、小学4～6年生を対象に「まが玉作り」などのさまざまな考古体験とおして古代に生きた人々のくらしや知恵にふれる「わくわく古代チャレンジ2017」を夏休みに開催しました。

このうち親子で考古体験を行う「ふるさと考古学教室」では、「刀鍛冶を体験しよう」「藍染を体験しよう」「ガラスの装飾品を作ろう」などを行い、310組の親子が楽しみながら、古代の技に挑戦しました。「こども考古学クラブ」には、より歴史について学習したいという意欲をもった6年生が集まりました。3日間、富山県の遺跡や出土品についてクイズを解きながら楽しく学習したり、普段は見ることのできない収蔵庫等を見学したりしました。参加者からは「昔のものづくりの大変さが体験を通して分かる良い機会になった」「歴史がもっと好きになった」などの感想をいただき、埋蔵文化財や地域の歴史への関心が深まりました。



刀鍛冶を体験しよう



土器の文様を見比べよう

インフォメーション

会場所 内容 対象 募集人数 応募要領
募集締切 参加料 ホームページ 問い合わせ

入館
無料

富山県埋蔵文化財センター 問い合わせ076-434-2814

開所40年記念特別展 遺跡保護のあゆみ

—富山県40年間の発掘調査で解き明かされてきた歴史の数々—

期日 開催中～
平成30年3月22日(木)まで

高速道路や北陸新幹線建設などの開発事業に伴う緊急発掘調査の40年間の歴史や、当センターが行ってきた歴史解明の成果、その裏に隠されたさまざまなトピックスに触れていただきます。



展示解説会

参加者
募集

富山県映像センター 問い合わせ076-441-8455

富山県視聴覚教育研修会

期日 平成30年2月7日(水)

富山県教育文化会館 5階
①映像教材等の紹介と活用例
②講演「ICT教育の現状と展望(予定)」
講師 富山大学大学院教職実践開発研究科 長谷川春生 准教授
詳細は各学校に文書でご案内します。

http://www4.tkc.pref.toyama.jp/eizou/



平成28年度 開催風景

自遊塾
県民教授
募集

富山県民生涯学習カレッジ 問い合わせ076-441-8401

平成30年度県民カレッジ自遊塾 県民教授募集

期日 平成29年12月中旬～平成30年1月中旬

自主的に企画・発表したい
・学んだことを生かして教えたい
・学びを深め、交流したい
あなたも、県民カレッジ自遊塾の県民教授
(ボランティア講師)になりませんか。

http://www4.tkc.pref.toyama.jp/toyama/

自遊塾

県民教授募集

入学生
募集

放送大学富山学習センター 問い合わせ0766-56-9230

平成30年度第1学期生(4月入学生)の募集

期日 平成30年3月20日(火) 必着 放送授業開始4月1日(日)

放送大学は、BSデジタル放送やインターネットを通じて、希望する科目を1科目から学べる通信制大学です。教員の方が、上位免許や特別支援学校教諭免許状等を取得するために役立つ科目も開講しています。

http://www.ouj.ac.jp



放送大学
富山学習センター

入場無料
(参加自由)

公益財団法人富山県ひとつづくり財団 問い合わせ076-444-2000

アイデア・ロボットフェスタ「チャレンジデー」

期日 1月13日(土) 9:00～12:30

高志会館カルチャーホール
「アイデアを形にする方法」に関する講演会(講師:ライター・作家 乙幡 啓子氏)、高校生、高専生が製作したロボットのデモンストレーションを行います。ぜひ、ご来場ください。



昨年のデモンストレーション

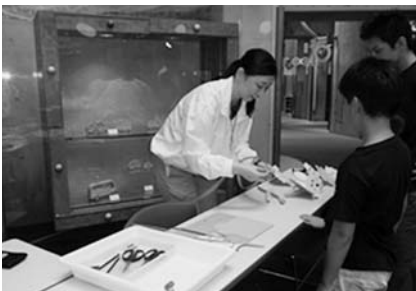
総合教育センター NOW

教育研修部 平成29年度11年次教職員研修 社会体験研修について

～学校以外での体験で刺激を受け視野を広げた3日間～

教職経験11年目の教員は、本年度も希望した企業や公共施設へ出向き、3日間の「社会体験研修」を行ってきました。これは、教育公務員特例法に基づき、在職期間が10年に達した教員に対して行われる研修で、一般企業や公共施設等での見学や講義、体験活動から、経営理念に基づいた経営戦略や顧客対応、組織の中堅として果たすべき役割等を学び、校務運営や授業改善に生かすことを目的としています。10年間学校現場で教育に邁進してきた受講者にとっては、これまでの自分を振り返ると同時に、学校現場では味わえない刺激を受け、社会の構成員としての視野を広げるよい機会となったようです。

受講者からは、「3日間、様々な話を聞いていく中で、我々の概念の中にはコストや時間というものがなく、時間管理等が甘くなっているという気がしました。組織の中で自分が働くことや自分の勤める学校の経営課題・仕事をより効率的にするためにはどうしたらよいかを考えるよい機会でした。」「3日間の研修を通して、接客業は第一に体力、そしてお客様の動きやスタッフの動きを瞬時に判断して行動できる観察力や相手が求めていることを考えて行動する気配りなど細かな配慮が必要な大変な仕事だということを実感しました。そして、学校生活でも同じことが言えると感じました。同じ“人と関わる仕事”を経験し、生徒や保護者、先生方への関わり方を改めて振り返ることができ、貴重な経験となりました。今後の教員生活に生かしていきたいです。」といった感想がありました。



文化施設でのイベント運営補助



レストランでの接客補助



テレビ局イベントの補助

平成29年度若手教員研修(初任者研修) 特別支援学校 学習指導1・情報教育

～子どもの実態に応じて有用な教材の活用を学ぶ～

8月21日(月)総合教育センターにおいて、初任者研修(特別支援学校)「学習指導1」「情報教育」の研修会が行われました。

学習指導1では、一人一人が事前に作成してきた資料を基に、自作教材・教具の作成意図や活用方法等を紹介し、よりよい活用方法について協議を行いました。受講者の感想には、「教材を使用するねらいを教師と生徒が共に確認しておくことが大切であると感じました。」「子どもの実態に応じて必要となる教材の形、大きさ、材料等の吟味の大切さを知りました。教材は目標に向かっての道具であり、使用する教師にもスキルが求められるので日々研鑽を進めたいです。」等がありました。

情報教育では、Excelを用いて授業及び校務で活用できる効果的な方法について学びました。受講者からは、「色々な小技を知ることができてよかったです。小技を活用して子どもたちにとって有用な教材をつくれそうです。」「教師の仕事は多岐に渡り、量も多いので、いかに効率よく仕事をこなせるかが大事です。教えていただいた小技を使って、能率よく仕事をしたいです。」等がありました。



「自作の教材・教具」についての班別協議



「すぐに役立つExcel講座」の実技演習

科学情報部

「授業力向上のためのICT活用研修会」について

ICT機器を有効に活用し、学習者全員が参加し、意欲がわき、理解できる授業を展開するには…

共通研修

日時 平成29年7月25日(火) 午後
講師 大阪教育大学連合教職大学院
 寺嶋 浩介 准教授
講演 「ICT活用を考慮した授業づくり」
内容 文部科学省のデータを基にICT活用の現状を紹介されました。また、デジタル教科書や電子黒板の具体的な活用例を通してICT活用の効果やICTを活用した指導の原則を確認されました。
研修担当者より 教育の情報化の手引きにある「ICTそのものが児童生徒の学力を向上させるのではなく、ICT活用が教員の指導力に組み込まれることによって児童生徒の学力向上につながる。」を強調して話され、「ICTって道具ですよ。やっぱり、授業力ですよ。」とまとめられたことが印象に残りました。



選択研修

日時 平成29年7月28日(金)
 または8月2日(水)の一日
実践事例報告および演習
講師 滑川市立北加積小学校 此川 美奈代 教諭
内容 前半は講師が実物投影機を活用した模擬授業を行った後、各グループで実物投影機を活用した授業を設計し、全体の前で模擬授業を行い評価しました。後半は講師がフラッシュ教材を活用した模擬授業を行った後、各グループでフラッシュ教材を作成し、他のグループに試行しました。講師から実物投影機およびフラッシュ教材の活用方法と活用する上での注意点をまとめていただき、参加者全員で確認しました。
研修担当者より 講師から「大きく映すと子どもは前を向き、学習内容を理解し、意欲的になります。」「ICTを活用した授業でも板書は必要です。大事なことは常に見ることができるようにしておかなくてはけません。」などの言葉がありました。ちょっとしたICT機器の活用が子どもの意欲を高めること、ICT機器だけでは授業が成立しないことなどを理解した上で、授業にICT機器を活用することが大事だと感じました。

受講者の声

- ・ICTの活用に大きな可能性を感じました。まずは「ちょっとICT」から始めたいと思いました。
- ・ICTを授業に有効活用するには、教員の授業力が必要なのだと実感しました。ICTを活用するスキルだけでなく、子どもへの発問の仕方や教材を提示するタイミングなど、それらの工夫の仕方ですべて楽しくできると思いました。

教育相談部

「子どもへの接し方」について

～「面接・面談の進め方のポイント」を学ぶ～

学校カウンセリング講座（教育相談スキルアップコース）第1回では、金沢大学 准教授 原田克巳先生の講義から、児童生徒との面接・面談の進め方のポイントとして次のことを学びました。

- ・受容的、支持的態度で相手の話をしっかりと聴く。
- ・できていること、力のあるところ、がんばってきたところなどをほめたり認めたりする。
- ・沈黙にも意味がある。安易に回避しない。
- ・児童生徒と約束をする時は、実現可能なことのみにする。
- ・I（アイ）メッセージ（※）で語りかける。
- ・悩みがあることは特別なことではないと伝える。

※ I（アイ）メッセージとは、「私は～と感じた」のように私を主語にして自分の気持ちや感情を率直に伝える言葉やメッセージのこと。相手に肯定的なメッセージとして伝わる。



金沢大学 准教授 原田 克巳先生

「あの子は～だ」と決めつけることなく、自分の子ども理解や捉えに対する謙虚さ、相手の声を聴く姿勢を心がけ、面接・面談していくことが大切です。

学校におじゃまして取材し、みなさんに各校の取組の様子をお届けします。

学校レポート

一人一人が輝き、主体的に取り組む活動を推進 —「東中ライトアップ作戦」を中心として—

魚津市立東部中学校

魚津市立東部中学校は、魚津市の中心部に位置する伝統校です。部活動や生徒会活動が盛んで、特に「東中ライトアップ作戦」は、生徒会が中心となって10年以上継続して行われている特色のある活動です。

今年度の「ライトアップ」には2つの意味が込められています。一つはボランティアでアルミ缶回収等を行い、そのお金でイルミネーションを購入し、学校の前庭を美しく照らすという意味。もう一つは、生徒会活動に主体的に取り組む、「一人一人が輝く」東部中学校にすることの意味です。今年も、10月から11月にかけて生徒会のすべての委員会が「しおりプレゼント」や「いただきます競争」などユニークな独自の取組をそれぞれ行いました。そして、11月14日（火）には、学年ごとに担当の木を決めてイルミネーションを取り付けました。今月1日の点灯式には、各委員会の委員長が、それぞれの取組の成果を発表し、カウントダウンの掛け声とともに美しいイルミネーションが輝きました。生徒一人一人の心の中に、今までの活動の充実感とともに温かい光がともった瞬間です。



学校前庭のイルミネーション



夏休みのボランティアの様子

東部中学校は、ボランティア活動も盛んです。夏休みには、デイサービスセンターでの「夏祭りスタッフ」や肢体不自由の方々のレクリエーション活動のお手伝いを行うなど、企画から実施にいたるまでのすべてに関わる有意義な活動を行いました。希望参加でしたが、100人以上の「東中ボランティア隊」が市内で躍動しました。

学校を訪問した際には、カラフルで内容の充実したPTA広報誌「東風」も見せていただきました。この広報誌は県の「優秀賞」を獲得したそうです。本年3月号には、校長先生とPTA会長さんががっちり手を握り合う写真が掲載されていて、学校の活力を感じることができる訪問となりました。

リレーエッセイ

「逆境に負けない」

富山県小学校長会長 滑川市立西部小学校長 清田 秀夫

昨年4月、熊本県で大きな震災があった。20年ほど前に内地留学で共に研修した先生が熊本県出身だったので心配になり、状況を尋ねてみた。現在はU市の教育長に就いておられ、たいへんな毎日をお過ごしておられた。何よりも市役所が震災のため崩れ使用不能となり、教育委員会は別の建物を間借りして仕事をする毎日だという。

そんな状況では、普段通りの学校教育を実施することは難しいのではないかと想像したが、5月には、どの学校でも運動会を行うために準備を進め、殆どの学校で実施したそうだ。環境が悪くても子供たちの学校生活に影響が出ないように頑張っておられた。また、中学生が地域の人たちを元気づけようと、避難所になっている学校で炊き出しに協力している話も聞いた。素晴らしいことだと感じた。県民のシンボルである熊本城もかなり壊れたが、崩れた石垣の石一つ一つに記号をつけ、再建しようと着実に修復が進められている。

東日本大震災で被害にあった福島県の校長先生にも話を聞く機会があった。被災のために再開が難しい学校や友達の多くが転出した地区では、不登校等の問題行動の比率が高く、困難から逃れようとするネガティブな子供が多い傾向にあるという話だった。災害等の逆境においては、復興・発展を目指す取組や最後までやり抜く体験など、くじけない心の教育が大切だと感じた。

最近、熊本県の先生に久しぶりに電話した。現在、市役所は取り壊され、仮設の建物で執務をしておられた。震災の後、大変なことも多いが「みんなで協力することの大切さ」や「足りないものを工夫して補う知恵」を教えられると言っておられた。また学校と地域が協力し合う機会がこれまで以上に増えており、これを教育に活かしていきたいとのことだった。

予算の確保など課題は多数あるようだが、子供たちのことを考えて骨身を惜しまず取り組む姿勢に頭が下がった。富山県には現在、熊本地震や東日本大震災のような大きな災害はないが、逆境においても子供たちに「困難を乗り越え未来を切り拓く力」「地域を愛する心」を育む姿勢は是非見習いたい。



■執筆者プロフィール

立山町出身 立山町立高野小学校長 富山県教育委員会教育力向上班長 富山県教育委員会小中学校課長を経て 平成29年4月より現職

（御意見・感想・学校が元気になるアイデア等お寄せ下さい。）

教育長への直通メールアドレス：ml-powerup@pref.toyama.lg.jp